

# ライデン大学図書館日本コレクション

ドクター・ヤン・ユスト・ウイットカム

ライデン大学図書館は1578年に創立されました。ライデン大学自体は1575年に創立され、その背景には反抗的なオランダ・プロテスタントの領土を支配し続けようとした、スペイン・カトリック教徒に対する政治的な意味合いが含まれています。ライデン大学はオランダ共和国で創立された最初の大学で、ヨーロッパ各地から多数のプロテスタントの学生を集めるのに成功しました。創立当初から神学は重要な教育の一つとして考えられていましたが、やがて東洋の語学が若い施設の専門になっていきます。

ライデン大学の教授であり、当時の権威者の一人でもあったJ.J.スカリンジャーが1609年にこの世を去った時、彼は個人のコレクションである書籍ならびに写本などを大学図書館に残しました。これらの書籍の中には、日本のJesuit出版の『落葉集』(1598年)、『Fides no doxi』(1592)、『Dictionarium Latino- Lusitanicum』(1595)などの稀なものも含まれています。早くもこの時期からライデンの日本コレクションの中核が形成されたのです。

鎖国及びキリスト教宣教師追放という1640年の日本の選択は、ヨーロッパにおける日本の研究による影響を与えませんでした。西洋の学者たちにとって日本は近づきにくい国となり、書籍や学問的な資料という形での情報の流れはほとんど停止してしまいました。

日本とのわずかな接触は、長崎の港に位置する人工小島、出島におけるオランダ事業でした。幕府から特別に許可されたこの小さなオランダ居留地出島

には、バタビア(現在のインドネシアのジャカルタ)管理下の東インド会社の代理店がありました。その主要な目的は貿易で、文化的または科学的な任務はありませんでした。

しかし出島に住むオランダ人たちは、日本人の学者たち、特にオランダ商人に就く通訳たちの家族から多彩な内容の学問的な書類を収集することをやめませんでした。更にオランダ使節団による定期的な江戸参府の旅も日本事情に関する知識を増やすのに貢献しました。またその逆の動きもあり、ヨーロッパの品物が出島を通して日本に入ってきました。その結果、'オランダ科学'というよりはむしろオランダ風ヨーロッパ科学の研究は、日本の学生たちによる目覚ましい学問的な成果に伴い、より活発になっていきます。

オランダ政府に仕えるドイツ人医師のフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト(1796-1866)の出島到着により、この活動は勢いを増します。彼は日本の地理、動物及び植物、海洋動物及び海洋植物、そして日本人の作法や習慣等、あらゆる面に関する資料を几帳面に収集しはじめました。そして結果的にこれらは書籍、地図、製図、加工品や標本などの膨大なコレクションとなるわけです。シーボルトは特に地図などを集めていたため、1828年に出島から追放されるという不幸な結果になりますが、もしこの事件が起らなければ彼のコレクションは更に莫大なものになっていたことでしょう。幸運にもシーボルトはあるだけのコレクションを持ち帰るこ



ライデン大学図書館外観

ことができました。

しかし、それでもなお、このシーボルトの活躍のお蔭で、目覚ましい数の日本の資料がオランダの公共施設のコレクションを豊かにし、研究に役立っています。

シーボルト及びヤン・コック・ブロムホフ、オーフェルメール・フィッセル、ヨハン・ヨーゼフ・ホフマンなどが収集した書籍、地図、そして写本などは、L.セルリエが『Bibliothèque Japonaise』（1896年ライデンで出版）に記録として残しています。日本の書籍に関する最新の書誌の記述は、オランダの著者H.ケルレンの編集で、オランダにある日本書籍専門のユニオン・カタログから出版される予定です。

セルリエが記述した日本の書籍、写本、地図などは1896年頃、オランダの三つの施設に分けられました。挿し絵入りの本も含め、日本人の作法や習慣に関する全ての書籍はライデン国立民族学博物館が所蔵することになり、日本の植物に関する書籍はライデンの腊葉館に預けられました。残りの資料は全てライデン大学図書館に保管され、資格のある研究者だけが原物を調査することができるようになっていきます。

ライデン大学図書館に保管されているこれらの資料の中に、今回の展覧会のテーマでもある日本の多数の地図類及び地理に関する資料があり、その内容は多岐にわたります。中でも印象的なのが、十七世紀頃のものと思われる日本の地方を描いた巨大な写本地図で、二十枚前後のシリーズで構成されていま

す。日本人の日常生活を描いた素晴らしい資料もある上に、お茶屋の住所とその従業員の名前まで記された小冊子もあります。このような資料は多分シーボルトの時代には大事に扱われず、ほとんど保存されませんでした。その他に、シーボルトの時代には入手が簡単だったと思われる多数の町案内図、旅行談、城案内などがあり、これらは全てライデン大学図書館にタイムカプセルのごとく本来の状態のまま保存されてきました。

ライデン大学は、このような資料を学問的に提供するのには義務であると考えます。過去数年の間にも多数の日本人学者がライデンを訪れました。またライデンに来ることができない研究者は書籍、写本、地図などの縮小判(microformat)を要請することができます。過去にも日本の展覧会のためにライデン大学図書館から日本地図を出品したことがあります。それは今回展示されるライデン・コレクションのごく一部であって、今回のような総合的な展示は初めてです。この展覧会により、日本とオランダの博物館及び図書館の間により深い協力関係が生まれることを願ってやみません。そしてこれらの書籍や地図類は、数世紀前の日本を映し出してくれる以上に、日本とオランダ共有の興味深い歴史そのものを回想させてくれることでしょう。

(ライデン大学図書館東洋コレクション学芸員)

中核市移行記念・シーボルト生誕200年記念特別展

# シーボルト・日本旅行

— 外国人の見た日本の原風景 —

中核市移行記念・シーボルト生誕200年記念特別展

# シーボルト・日本を旅する

—外国人の見た日本の原風景—

